

## 2025 年度 第 1 回 公立大学法人埼玉県立大学経営審議会 議事録

日 時 2025 年6月17日(火)14:40～16:00

会 場 本部棟大会議室(オンライン併用開催)

出席委員 田中議長、林委員、犬飼委員、金村委員、戸所委員、井橋委員、池田委員、澤登委員、遠藤委員

出席教職員 田中副学長兼学部長、常盤学長補佐、濱口研究開発センター長、田口学生支援センター長、長岡副局長、新井調整幹兼総務担当部長、篠原企画・情報担当部長、出井財務担当部長、富田学生・就職支援担当部長  
【オンライン】  
横山研究科長、北畠情報センター長、善生専門職連携教育研修センター長、上原地域連携センター長、滑川保健センター長、甲田施設管理担当部長、根本教務・入試担当部長

議事概要 ○:学外委員 ●:学内委員、事務局

### 【審議事項】

#### (1)令和6年度業務実績報告書(案)について

資料に基づき、長岡副局長から説明した。

案のとおり理事会に提出することについて、異議なく承認された。

#### 主な発言は以下のとおり

○開学 25 周年記念講演会等への地域住民の参加はあったか。

●開学 25 周年記念事業として、6月に本学の建築設計者である山本理顕氏の講演会、10 月の清透祭において記念講演会、2 月に研究開発センターシンポジウムの3件の事業を実施し、10 月と 2 月の2件では一般の方の参加も受け付けた。10 月は計250人の参加があったが、清透祭との同時開催だったこともあり関係者と一般の方を分けて集計しておらず内訳が不明である。2 月は全体の参加者が 76 人であり、内 23人が一般の方だった。

- 前年度より減少したとのことだが、科研費の採択件数は非常に多いと思われる。採択率は何割か。
- 令和6年度の採択率が 21.5%で、令和5年度は 26%程度である。30%程度を目指しているが、年度によって差が出ている。
- 30%となるとかなりレベルが高いのではないか。22%でも立派な数字だと思う。今後更に採択率が上がるよう、研究費申請に関する指導や助言を行ってほしいと考える。
- 現在、科研費の採択率を向上させるため、申請書のブラッシュアップや研究計画の相談先として5人の外部の有識者に依頼をしている。今後、こういった支援についても充実に努めていきたいと考えている。
- 科研費の採択件数や採択率は、大学のブランドとして非常に重要である。今後とも頑張ってもらいたい。
  
- 国家試験について、6職種で 100%の合格率達成は素晴らしいことだと思う。社会福祉士の試験は、新卒学生の合格率が伸び悩んでいる状態だった。近年は少しずつ上がってきているが、その上昇を超えた合格率を達成いただいている。今後とも、精神保健福祉士を含めてご指導いただければと思う。
- 医療分野だけでなく福祉分野についても、高い合格率を維持し、更に高められるよう努力していきたい。

## (2)令和6年度決算(案)について

資料に基づき、長岡副局長から説明した。

案のとおり理事会に提出することについて、異議なく承認された。

### 主な発言は以下のとおり

- 当期利益が予定していたよりも 1 億 3400 万円下回り、その補填として目的積立金の取り崩しを行い、最終的にプラスになったのだと思うが、当初の予定と大きく乖離した理由は何か。
- 人件費や光熱費の高騰、物価高が理由と考えている。
- 今年度も昨年度と同様に人件費や光熱費等が高水準で推移すると、今年度決算も厳しいものになることが予想される。収入増や支出削減について検討していることはあるか。
- 人件費の高騰分に関しては、2年後に県から運営費交付金として追加交付される。また、光熱費に関しては、県へ運営費交付金の増額を要望し、今年度から増額要求が認められた。その他労務単価の高騰等に関しても、運営費交付金の増額を県に要望することが考えられ

るが、増額要求が認められない可能性も高いのが実情である。運営費交付金と比較するとかなり少額にはなってしまうが、施設貸付や外部研究費の獲得等を通じて自己収入の増にも取り組んでいきたい。

○目的積立金の残高が6億4900万円となっているが、これは適正な金額と考えられるのか。

●目的積立金については、学内でもシミュレーションを行いながら管理しているところであるが、現在のペースで取り崩しを続けると不足することも考えられる。支出の削減や運営費交付金の増額要望等によって、支出と収入の差を埋める努力をする必要があると考えている。

○どこの事業体においても、経費の増加により苦境にあるという話を聞いている。本学においても苦勞されていると思うが、例えば演習に必要な備品が十分に購入できなかったり、教員の要望に応えられない等、教育現場に直接的な影響が出たりはしているか。

●教員の要望全てに応えることは難しいというのが現状である。優先順位を付け、教員の意見を聞きながら、教育現場になるべく影響が出ないよう進めているところである。

○教員からの意見が1番だとは思いますが、学生からの意見も聞くよう努めてもらえたらと思う。

### (3)教員人事委員会委員の指名(案)について

資料に基づき、長岡副局長から説明した。

案のとおり理事会に提出することについて、異議なく承認された。

### (4)学長選考会議委員の選出について

資料に基づき、新井調整幹から説明した。

委員として、犬飼委員、遠藤委員が選出された。

#### (5)役員報酬規則の改正について

資料に基づき、新井調整幹から説明した。

案のとおり理事会に提出することについて、異議なく承認された。

#### 【報告事項】

##### (1)2024 年度卒業生の就職・進学状況等について

資料に基づき、田口学生支援センター長から報告した。

##### 主な発言は以下のとおり

○ほとんどの学科において卒業や就職にたどり着いており、素晴らしいことと思う。昨年度に卒業した学生はコロナ禍を経験しながら学生生活を送っていた。卒業から3か月経過したが、リアリティショックが起きている可能性も考えられる。本学では卒業後のフォローも丁寧に行われていると伺っている。今後、人口減少が進む中で、若者には長期的にキャリアを築き、継続的に就業してほしいと考えている。引き続き卒業後の支援をお願いしたい。

○推薦で就職先が決まった学生は何人いるのか。

●本学から26 人を推薦し、21人が合格に至った。

○5人は希望した病院に就職できなかったということか。

●そのとおりである。病院側でも面接等の選考が行われるため、採用されない場合もある。

○例えば、2枠の応募枠の病院に5人の希望がある場合、どのように対応しているのか。

●学生支援センターにて選考会議を行い、応募枠に応じて人数を絞ることになる。

○昨年度にそのような選考を行った事例はあったか。

●昨年度は選考の事例はなかった。現在、指定校推薦の募集枠は埋まり切っていない状態である。学生に対して推薦という有用な方法があることを積極的に周知し、就職活動の一助となるよう事務局としてもより努力していきたい。

(2)2025 年度科研費の採択状況について

資料に基づき、濱口研究開発センター長から報告した。

(3)業績評価指標の推移について

資料に基づき、常盤学長補佐から報告した。

主な発言は以下のとおり

○授業料減免について、減免となった分の授業料収入はどのように扱われているのか。また、減免される金額はどの程度か。

●減免となった授業料分については、授業料等減免負担金として埼玉県から措置されている。減免金額は家庭の所得状況に応じて、全額免除、2／3減額、1／3減額のいずれかが決定される。本学の学生全体に占める減免対象者数は 10％程度であり、この5年間はほぼ同水準である。

○奨学金についてはどのような対応がなされているか。

●日本学生支援機構や民間の団体が実施する奨学金制度について、学生に対し丁寧な案内を行っている。

以上